

荒木特許事務所

## ゴマメ通信

( 2 0 1 6 0 1 号 )

きも いり やく

発行人：発明を育てる会（千葉発明研究会）肝 入 役  
 荒木特許事務所 弁理士 荒 木 昭 生  
 住 所：（千葉本室）

〒 261-0004 千葉市美浜区高洲 2-7-5-103

Tel / fax 043-245-8721 Email: a-araki099@nifty.com



H 2 8 . 2 . 7 撮 影

近くの水路脇ではもう河津桜が咲き始めた。メジロが飛んできたので、これ幸いとレンズを向けたが上手く撮れなかった。連射撮影も失敗であった。

この通信は、知的財産関連情報や時に感じる話題に関して、筆者のゴマメが自己の知人や友人に気の向くままに発信する一種のエッセーである。ゴマメの生存の証に「ゴマメの戯言」としてご笑覧くだされば幸甚です。

紅白歌合戦を見て年越し蕎麦を食べるのが恒例のゴマメ家の年越しであるが、今年の紅白は、まるで小学校の学芸会かとおびっくりしたのはゴマメが年を取ったからであろうか。ほとんどの演出がキンキラキンでジャンジャラダンスのオンパレードだ。応援団と称するベンチャラ軍団も下品極まりない。スマホとアニメの世代に迎合しての番組作りかとは思いますが、長年連続出場されている有名歌手の方々も学芸会の味付けではかわいそうである。民放よりNHKを優先していたゴマメにとっては、これが伝統あるNHKの紅白かと今後の行く末に一抹の淋しさを感じる年末であった。

今年の日本列島は異常寒波で大雪が降り、鹿児島や沖縄にも降雪が報道された。それにも拘らず、ゴマメの周辺だけは初雪らしい降雪さえ見られなかった。これはゴマメが珍しく成田山新勝寺に初詣などに出かけたので、貧乏コンクリート長屋の住民に過分の暖房費を消費させない天の温い思い遣りかもしれない。

ゴマメ通信の種もこれといったものが見付からないま1月も過ぎ2月も半ばを過ぎてしまった。2月13日の新聞によれば、アインシュタインが100年前に存在を予言したと言われる重力波の存在が確認されたことが大きく報道された。重力波による宇宙空間のゆがみは、太陽と地球ほどの距離である1億5千万キロに対し、およそ水素原子1個分（1千万分の1ミリ）程度と解説されている。

今後何時の日か宇宙誕生の謎も生命の謎も解明されるであろう。発明は見果てぬ夢の追求にあると信じて生きているゴマメには夢が夢でなくなるのは淋しい思いがする。

発明は自然法則を利用した技術思想の創作であって、産業の発達に寄与するものでなければならぬと定義されているが、見掛けの利益や利便性を追求するあまり、原子力発電所や、安全と思われる風力発電や潮流発電或いは太陽光発電と言った発明も、自然法則の利用の仕方を間違えると取り返しのつかない自然界のバランスを乱し、地球環境破壊による生物の生態系の変化や滅亡だけでなく、自然法則を利用したつもりの人間自体の滅亡をも導きかねない。

或る自動車会社がAI（Artificial Intelligence）車、つまり人工知能搭載車を2016年中に発売すると言う。AI車と思われる自動車の制御に関する国内特許出願は、特許庁電子図書館によれば平成5年から870件を超えている。AI車の制御能力の過信は人身事故のみならず想定外の重大事故による惨事が予測される。

更に、人工知能脳が自ら学習を行うようになれば人間の知能を超え、人間無用の世界が展開されるであろうことは明らかである。科学者と技術者がどこまで夢の追求を行うかに人類の存亡が賭かっているのである。夢は夢のまま残して置く夢も必要なのではないかと思う。